

普及活動現地情報

「農業現場では、今」

令和元年 12 月号



【東牟婁振興局】12/5 重点プロジェクト【新規就農者の育成を核としたイチゴの産地育成】
～イチゴ定植圃現地研修（第4回セミナー）を実施～

和歌山県農林水産部経営支援課

（農業革新支援センター）

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。



< 目 次 >

頁数

I 海草振興局	1
1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】 ～普通温州優良系統の貯蔵試験を開始～	
2. ダイコンの優良品種選定試験を実施中	
II 那賀振興局	2 - 3
1. 技術研修会を開催 ～紀の川市環境保全型農業グループ～	
2. 那賀地方農業士会女性部会カトレア会が研修会を開催！	
III 伊都振興局	4
1. 農業技術講習会果樹コースを開催	
IV 有田振興局	5
1. クリスマスマかんツリーで消費拡大PR！	
V 日高振興局	6 - 8
1. スターチスの種苗費削減に向けて	
2. みなべ梅郷クラブが県外先進地研修を実施	
3. 印南町内の小学校で食育体験を実施	

Ⅵ 西牟婁振興局

9-10

1. イチゴ「まりひめ」の高品質安定生産を目指して
～栽培圃場現地巡回及び意見交換会を実施～
2. スモモのジョイント仕立て栽培実証園を設置しました

Ⅶ 東牟婁振興局

11-13

1. 重点プロジェクト【新規就農者の育成を核としたイチゴの産地育成】
～イチゴ定植圃場現地研修（第4回セミナー）を実施～
2. 那智勝浦町苺生産組合が出荷検討会（めならし会）を実施
3. 三津ノ地域活性化協議会が籾殻堆肥づくり研修会を開催
4. 太田のナス組合が栽培出荷検討会（反省会）を実施

Ⅷ 農林大学校 就農支援センター

14

1. 特別研修「小型車両系（整地等）特別教育」を開催

I 海草振興局

1. 重点プロジェクト【次世代につなぐ下津みかん産地への取り組み】

～普通温州優良系統の貯蔵試験を開始～

農業水産振興課では、12月11日、13日、JAながみねと連携して、海南市下津町内で普通温州優良系統の貯蔵試験を行うため、果実サンプリングと果実品質調査を実施した。貯蔵試験系統は下津地区特産の「蔵出しみかん」に適した新たな品種を探索することを目的に昨年度から実施しており、今年度は浮皮が少なく有望と考えられる系統と対照品種の計11品種・系統で調査を行っている。

今後、貯蔵中の品質調査や貯蔵後の食味調査等を行い、下津みかんの中心である「蔵出しみかん」に適した新たな品種・系統の選定に繋げていきたいと考えている。



果実のサンプリング

2. ダイコンの優良品種選定試験を実施中

農業水産振興課ではJAわかやまと連携し、和歌山市布引地区においてダイコンの品質維持、向上のため、毎年、播種時期別に4～5系統の栽培比較試験を行っている。

和歌山市では砂地でのダイコン生産が多く、とりわけ布引地域で作られるものは品質が良く、古くからブランドとして流通している。

今年度も11月下旬から慣行品種に加え継続検討品種、新規品種を播種、収穫を行い、現行の慣行品種の欠点をカバーしつつ、品質で上回る新たな品種の探索を続けている。



品質調査



目揃え会(12/9)

Ⅱ 那賀振興局

1. 技術研修会を開催 ～紀の川市環境保全型農業グループ～

紀の川市環境保全型農業グループ（畑敏之会長）は12月13日、「バイオスティミュラントについて」と題して、（株）バイオシードテクノロジーズ代表取締役 広瀬陽一郎氏を招き、技術研修会を開催した。関係者を含め14名の参加があった。

広瀬氏は、大学卒業後、総合商社ニチメン株式会社（現双日株式会社）に入社し、サウジアラビアに駐在して2007年に退職するまで繊維から肥料まで取扱商社マンとして活躍され、その後現在の会社を立ち上げ、バイオスティミュラントのプロとして活躍されている。

講師からは、バイオスティミュラントの定義として「生物刺激剤」と言われているが、主要要素（NPK）、農薬以外の物質で、具体的には微生物、アミノ酸などで作物をより良く育てることができる、中国やアメリカのカルフォルニア州で盛んに活用されている農業資材であるとの説明があった。

参加者からは、「毎年施用して過剰とならないか」、「購入はどのようにして行うのか」など熱心に質問があった。

農業水産振興課では、会員らの経営や栽培の参考となる研修会を今後も開催していく予定である。



研修会

2. 那賀地方農業士会女性部会カトレア会が研修会を開催！

那賀地方農業士会女性部会カトレア会（山名知津会長）では、12月17日に高井侑美氏を講師に迎え、ハーバリウム作り体験を行った。

「ハーバリウム」とはガラス瓶などに乾燥した草花類とオイルを入れ、インテリアとするもの。今回の研修会では、ボールペンとガラス小瓶の2作品に挑戦した。

会員はまず、各自好みの花を選んだ後、完成形を想像しながらピンセットを使って慎重にボールペン軸と小瓶に花を配置していった。思いのほか細かな作業に四苦八苦しながらも、最後にはそれぞれ見栄えのするハーバリウム作品を完成させた。

研修会ではその他、今後の会活動についての話し合いも行われ、普段顔を合わす機会の少ない
会員同士の親睦を図ることができた。



ハーバリウム作りに挑戦



完成した作品

Ⅲ 伊都振興局

1. 農業技術講習会果樹コースを開催

農業水産振興課では新規就農を目指す方等を対象に農業技術講習会果樹コース（延べ7回程度）を開催し、年間を通じて果樹栽培の基礎的な講習をおこなっている。

12月3日、九度山町内の柿園において「刀根早生」の剪定講習会を開催し、同講習会の受講生6名に加え、新規就農者等（飛び入り参加の方を含む）13名が出席した。

有田普及指導員が模範剪定を実演したあと、受講生が交代しながら一本の樹の剪定を仕上げた。受講生は、剪定鋸や剪定鋏での枝の切除、側枝更新による枝の若返り等、剪定技術の基本を実習した。

果樹コースでは2月上旬に今年度最終となる接ぎ木実習の開催を予定している。



講師の模範剪定



交代しながら剪定をする受講生

IV 有田振興局

1. クリスマスマかんツリーで消費拡大PR！

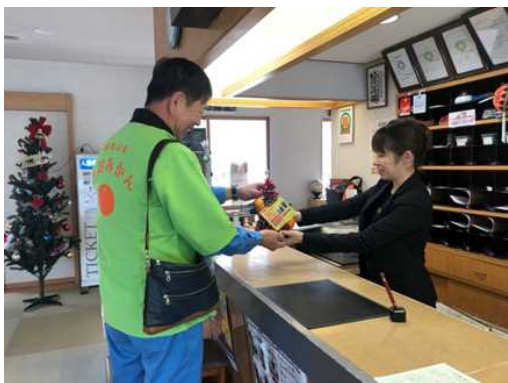
有田地域農業振興協議会（市町、JA、農業共済、農業水産振興課で構成された団体 会長：西岡利記広川町長）は、12月16日～19日にかけて管内のJA関係施設、郵便局、金融機関、行政機関、直売所、JR各駅など約80か所に、みかんの生果を飾り付けた小さい「クリスマスみかんツリー」（以下、ツリー）を配布した。

カナダにはクリスマスにみかんを食べる「クリスマスオレンジ」という慣習があることやみかんがクリスマスの訪れを知らせる聖なる果実であることにちなみ、平成27年度より、この時期に行っている。

「毎年楽しみにしています」、「今年のツリーは色が昨年と変わっていますね」等、受け取られた担当の方の評判は上々であった。

また、昨年度実施したアンケート調査では、ツリーを見た来店（所）者の反応は良かったとの回答が6割であり、毎年続けていってほしいとの意見もあった。

当課では、これらの意見を踏まえ、今後も関係機関と連携して、有田みかんの消費拡大に取り組んでいく。



ツリー配布



振興局ロビーに展示しているツリー

クリスマス みかんツリー の作り方

市販のクリスマスツリーにモールでみかんを飾るだけ。とっても簡単です！



モールの他、毛糸などでもOK！
Sサイズ以下の、小さいみかんの方が飾りやすいです。

百均のツリーでもかわいくできます。もちろん大きなツリーでもOK！

飾っているうちにみかんは少しずつ腐んでいきます。どんどん食べて、新しいみかんと交換してね。

（例）ツリー108円＋モール108円＋みかん（4個）200円＝420円程度で作れます！！

オリジナルのクリスマスみかんツリーを楽しんで下さい！！

有田地域農業振興協議会（事務局：和歌山県有田振興局農業水産振興課）

ツリーに付けたPOP

V 日高振興局

1. スターチスの種苗費削減に向けて

日高地方の主要品目であるスターチス生産では、高冷地で育苗した苗を購入するか、あるいはクーラー施設で苗を育てる必要があるが、種苗費が経費全体の約 40%を占め、所得向上を図るためには、種苗費の削減が課題となっている。このため、農業水産振興課では、暖地園芸センターが開発した「スターチス常温育苗技術」導入による種苗費の削減を推進するため、管内 2 カ所で現地実証を行っている。

実証試験には、本県のオリジナル品種「紀州ファインバイオレット」、「紀州ファインラベンダー」を用い、暖地園芸センターで常温育苗^注した苗と農家がクーラー育苗した苗をそれぞれ 8 月下旬と 9 月上旬に定植し、生育や収量を調査している。現在のところ、常温育苗株は、クーラー育苗株と遜色のない生育と収量を示しており、実証ほの園主からも「それぞれの苗の生育や収量に差はみられない」との感想をいただいている。

現地実証は、今年 3 月中下旬まで行い、実用性を確認した上で本格的な技術普及に取り組むこととしている。



実証ほの生育状況調査（御坊市名田町）

注) 遮光を施した雨よけ施設で成り行き気温の下で苗を育てること

2. みなべ梅郷クラブが県外先進地研修を実施

12 月 11 日～12 日、みなべ梅郷クラブ（平野智也会長）は、安全・安心な農産物の生産技術を学ぶとともに会員相互の親睦を図るため、農業生産法人山口農園（奈良県宇陀市）及び、JAいずみの農産物直売所「愛彩ランド」（大阪府岸和田市）で先進地研修を実施し、会員ら 8 名が出席した。

山口農園は、ほ場面積 10ha、ハウス 165 棟で有機野菜（水菜、ほうれん草、小松菜等）を周年栽培している。

山口貴義社長からの説明では、生産物を常に欠品がなく出荷できるシステムを目指し、加工部、生産部、収穫部、調整部、営業販売部、教育部、総務部を設け分業化している。有機栽培には欠かせない土づくりに力を入れ、完熟堆肥を自社で製造している。有機栽培の問題点として、農薬を使用しないため病害虫の被害が多く、消費者からのクレームが多数ある。改善策としてクレーム内容を掲示板にすべて貼りだし、全員で共有し注意を払っているということであった。

会員からは、「法人化するきっかけは」、「従業員の給料はどのくらいか」等の質問があり、農業経営について考える良い機会となった。

次に、農産物直売所「愛彩ランド」では、泉州野菜や果物等の販売を見学した。品揃えが非常に豊富で、地産地消を積極的に進めるためにレストラン等も設置されていた。

農業水産振興課では、今後も同クラブの活動支援を通じて担い手育成と農業経営の改善を推進していく。



農産物直売所「愛彩ランド」見学



山口農園 有機野菜説明



山口農園 完熟堆肥製造説明

3. 印南町内の小学校で食育体験を実施

印南町内の小学校では、食育の一環として食文化体験を実施している。今回、明日を考える会（小田美津子会長）に清流小学校から町の郷土料理である「かきまでご飯」を、印南小学校からは授業で習う大豆の加工品を学びたいとの要請があり、授業をすることとなった。

12月18日、清流小学校5～6年生14名が、印南町の郷土料理である「かきまでご飯」を作った。講師は、明日を考える会の小田美津子会長と島本加奈子氏が務め、小田氏は、「皆さんのおじいちゃんやおばあちゃんよりもっと昔からある郷土料理を作りましょう」と話した後、「かきまでご飯」の作り方を児童に説明した。その後、児童が具材を細かく切り、ほぐした焼きサバの身と一緒にサバの骨でとった出し汁と調味料で煮込んだ。その後、炊きたてのご飯に煮込んだ具材を混ぜ、刻んだキヌサヤと紅生姜を添えた。また、地元産のキヌサヤを使った味噌汁も作り、その日の給食として一緒に皆で試食した。

児童からは、「包丁で具を切るのが難しかった」、「具がいっぱい入っていて美味しかった」、「おばあちゃんが作ってくれた味に似ていた」との声やおかわりする児童もいて大好評であった。講師を務めた2名は、「昔から伝わる印南町の郷土料理を、子供達に知ってもらうことができ嬉しい」と述べていた。

このほか、12月2日には印南小学校3年生32名に豆腐づくり体験を実施した。児童らは、大豆からおからと豆乳ができることや、豆乳ににがりを入れて固めると豆腐になることを体

験した。児童からは、「豆腐がきれいに固まって良かった」、「豆腐が甘く感じた」などの声があり、楽しく学ぶことができた。



具材を切る（清流小学校）



味噌汁をよそう（清流小学校）



水につけた大豆をミキサーにかける
（印南小学校）



出来上がった豆腐を食べる
（印南小学校）

VI 西牟婁振興局

1. イチゴ「まりひめ」の高品質安定生産を目指して

～栽培圃場現地巡回及び意見交換会を実施～

12月12日、稲成いちご研究会（宮本誠士会長）は、イチゴ「まりひめ」の栽培技術の向上と高品質安定生産を図るため、研究会会員6名、JA紀南職員2名、普及指導員1名参加のもと、圃場巡回や意見交換会を行った。

はじめに、JA紀南職員からパック詰めについての注意点やブランド力向上を図るため、大玉果にこだわった「DXパック」の出荷時期等について説明があった。また、会員から大阪市場向けのDXパックの規格の変更についての提案があり、意見交換を行った。

農業水産振興課からは、天敵利用によるイチゴのハダニ防除対策について、現在取り組んでいる宮本会長のハウスでの実証試験の概要や、ハダニ以外の病虫害防除対策について説明を行った。会員からは「今年はハダニの発生が少なく、今のところ薬剤防除で対応出来ているが、効果のある防除薬剤がなくなってからでは遅いので、今回の実証試験の結果を見て、来年度以降に天敵の導入を検討したい」との意見があった。

その後、会員の圃場を巡回し、定植後の生育や病虫害の発生状況等を確認した。

今後も同研究会では、会員相互の情報共有と高品質安定生産に向けての現地巡回や意見交換を積極的に行っていく。



出荷規格について意見交換



圃場を巡回して生育確認

2. スモモのジョイント仕立て栽培実証園を設置しました

西牟婁農業プロジェクト協議会（天田聡志会長（JA紀南常務理事）以下、協議会）は、田辺・西牟婁地域の市町（旧串本町含む）、JA、農業委員会、生産者、振興局で構成し、地域農業の課題解決や調査研究を目的に関係機関が一体となって活動している。

当地域では、ウメ、柑橘類に次いでスモモの栽培が盛んであるが、栽培面積は10年前に比べ約10ha減り、現在約40haとなっている。生産面積の維持を図るため、JA紀南独自に改植や新植にかかる費用（苗木、平棚パイプ資材）の助成を行っており、一定の効果を発揮している。このたび、当協議会が主体となり、神奈川県農業技術センターが開発した「ナシ

の樹体ジョイント仕立て栽培」をスモモ栽培で試験導入し、改植や新植による早期成園化及び管理作業の省力化を検証することになった。

実証園設置に先立ち、10月下旬に関係機関職員3名と生産者の4名で神奈川県農業技術センターと川崎市内にあるジョイント栽培実証ほ場において研修を行った。

12月10日、田辺市新庄町の栽培実証園（面積2a）で苗木の定植を行った。苗木本数は28本（栽培品種：太陽22本、受粉品種：サマーエンジェル3本、ハニービート3本）で樹間1m、1列に8本、10本、10本の3ユニットで定植した。設置にはJA紀南営農指導員、田辺市職員、生産者、普及指導員の12名があたり、実証園設置の目的や作業手順を確認した後、手分けして定植を行った。

当協議会では、今後、翌年に発生した新梢を誘引して樹体同士を接ぎ合わせ、早期結実に向けた肥培管理や整枝・せん定を行うことで技術の共有を図るとともに、スモモ栽培に関心のある生産者を対象にジョイント仕立て栽培研修会を開催する予定である。



設置目的と定植手順の説明



定植作業

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【新規就農者の育成を核としたイチゴの産地育成】 ～イチゴ定植圃現地研修（第4回セミナー）を実施～

12月5日、那智勝浦町苺生産組合(栗野稔近会長)は、イチゴ「まりひめ」の栽培技術向上を図るため、定植圃現地研修（第4回イチゴセミナー）を実施した。当日は、生産者13名の他、JAみくまの及び農業水産振興課職員合わせて21名が参加し、各生産者の圃場巡回を行った。

各圃場では、生育や病害虫の発生状況などの確認を行った。今年は8～9月の高温により花芽分化が遅れ、全般的に収穫の開始時期が遅くなっていた。病害虫の発生状況については、ヨトウムシや炭そ病の発生が例年より多い傾向にあり、定植後の薬剤散布の方法や時期について生産者で意見交換を行った。

圃場巡回後は、堺普及指導員から今年度作成したイチゴ就農支援プログラムについて紹介があり、同プログラムの経営管理チェックシート（栽培管理・販売管理・コスト管理等について経営状況をチェックするための資料）の活用方法について説明があった。

当課では、関係機関と連携しながら同苺生産組合の活動を支援していく。



各生産者の圃場巡回



就農支援プログラムの説明

2. 那智勝浦町苺生産組合が出荷検討会（めならし会）を実施

12月6日、那智勝浦町苺生産組合(栗野稔近会長)は、出荷基準の統一を図るため、JAみくまの太田営農センターにおいてイチゴ出荷検討会（めならし会）を実施した。当日は、生産者11名の他、JAみくまの及び農業水産振興課職員合わせて19名が参加した。

同苺生産組合では、販売単価の向上を目的に、今年度から使用するイチゴパックを変更（330g→270g）することとしており、今回、新しい出荷基準とイチゴの詰め方について生産者で意見を交換し、統一を行った。

6日は、収穫初めで小玉のイチゴが少なかったため2L以上について統一を行い、L以下については16日に再度、めならし会を実施し、出荷基準を統一した。

当課では、関係機関と連携しながら同苺生産組合の活動を支援していく。



出荷検討会（めならし会）

3. 三津ノ地域活性化協議会が籾殻堆肥づくり研修会を開催

12月9日、三津ノ地域活性化協議会（下阪殖保会長）は、アグリジイティ株式会社の田村英昭氏、田村智広氏を講師に招き、籾殻堆肥づくり研修会を開催した。

三津ノ地域は水稻の栽培が多く、籾殻が多量に発生する。その籾殻の活用方法を学ぶため、本研修会を開催した。研修会には同協議会員の他、地元農家、JAみくまの及び農業水産振興課職員合わせて17名が参加した。

研修会では、最初に田村氏より健康な土づくりについて講演があった後、籾殻の発酵を促す菌を吸着させた土壌改良材を用いた籾殻堆肥づくりの実演が行われた。参加者も作業に加わり、堆肥づくりの方法について学んだ。

今回は、籾殻と土壌改良材、菌のエサとなるナタネ油粕・米ぬかを混ぜ合わせ、水を含ませ積み上げるまでの工程を行った。今後は、20日ごとに切り返しを2回行い、およそ60日で堆肥が完成する。

研修会はあと3回、切り返しのタイミングと完成時に行われる予定で、次回は1月11日に切り返しの実演研修を予定している。

完成した堆肥は、同協議会が洪水被害を受けにくい新規野菜の導入に向け設置しているモデル園で活用する。当課では、今後も同協議会の活動を支援していく。



籾殻堆肥づくりの実演

4. 太田のナス組合が栽培出荷検討会（反省会）を実施

12月26日、太田のナス組合（松本安弘会長）は、太地町のいさなの宿白鯨で栽培出荷検討会（反省会）を実施した。生産者の他、市場関係者、JAみくまの及び農業水産振興課職員併せて10名が参加した。

今年は、6～7月の長雨による日照不足や、青枯病、うどん粉病、アザミウマ等の病害虫が多発した農家もあったことから、昨年に比べて出荷量が若干減った。組合員らは、対策として、来年作では、青枯病に強い台木の使用を基本に、うどんこ病やアザミウマの早期防除に努めること等を話し合った。また、今年度から新たにナス栽培に取り組んだ新規就農者からは、「作業が後手後手になったので、来年は前倒しでやりたい」、「肥効調節型肥料が思ったより早く効きすぎたので、肥料の種類と使い方を検討したい」との反省の声もあった。

当課では、関係機関と連携しながら同ナス組合の栽培技術向上に向けた取り組みを支援していく。



ナスの栽培出荷検討会（反省会）

Ⅷ 農林大学校 就農支援センター

1. 特別研修「小型車両系（整地等）特別教育」を開催

12月25日から26日、就農支援センターにおいて、パワーショベルを操作するために必要となる資格を取得するための特別研修「小型車両系(整地等)機体質量3t未満 特別教育」を実施した。この特別研修には社会人課程と技術修得研修の研修生ら12名が参加した。

1日目は、パワーショベル等に関する法規、構造、操作、安全使用などの学科講習を受けた。

2日目は、実際にパワーショベルを操作して、地面の掘削や整地、土の積み込みなどを行った。

受講生は、慣れない機械の操作に苦労しつつも、次第に上達し操作に自信も出てきた様子で、参加者全員が運転資格を取得することができた。

パワーショベルなどの建設機械は、農作業の大幅な省力化が期待できるため、安全第一で事故防止に努めながら農作業の効率化を図ってほしい。



学科講習



パワーショベル操作実習

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489